

## JSPS Information

- ◇日本惑星科学会入会案内
- ◇第1回運営委員会議事録
- ◇第2回運営委員会議事録
- ◇第3回運営委員会議事録
- ◇編集委員会報告
- ◇第1期役員名簿および賛助会員名簿

### ◇日本惑星科学会入会案内

「日本惑星科学会」が平成4年4月に正式に発足しました。新学会の設立目的は、まず惑星科学それ自体の振興にあります。旧来分野の垣根を取り払い、相互理解や情報交換を積極的に進め、また、異なった手法、異なった対象の研究を集約し総合的な視点にたって惑星科学を推進することが第一の目的です。また、本格的な惑星探査の時代を迎え、日本の惑星科学界全体として直接、間接に探査計画を支え、さらには将来の探査計画を立案すべく、新学会がその組織化をはかることも重要です。同時に、惑星科学研究の国際的な共同計画に日本の応分の負担と協力が求められている現在、新学会が力量を高め、国際的な窓口としての役割も果たすことになると思われます。更には、惑星科学の成果を社会に還元したり、また、中・高校生など若い人材を惑星科学に勧誘するための広報活動も新学会の重要な責務です。

このような日本惑星科学会設立の主旨にご賛同くださり、今後の惑星科学の発展をともに担う広範な分野の方々の入会をお待ちしています（会則は創刊号に掲載されています。また第1期役員名簿は本誌95ページに掲載されています）。

入会の方法は下記の通りです。

年会費：

6,000円（但し、学生会員は4,000円）

入会手続：

- (a) 入会申込書（本誌巻末に綴込まれています）にご記入の上、事務局にご送付下さい。
- (b) 運営委員会において入会が認められますと、事務局より入会受理のお手紙を差し上げます。
- (c) その後、(財)日本学会事務センターより年会費請求書が送付されます。請求書に従って年会費をお振り込み願います。なお、入会受理より年会費請求まで遅延があります（最大2ヶ月程度）が、会員としての権利は入会受理と共に発生します。

事務局：

〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1  
東京工業大学 理学部 地学内

TEL：03-3720-9885

FAX：03-3727-4662

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9

(財)日本学会事務センター

TEL：03-5814-5801

FAX：03-5814-5820

## ◇日本惑星科学会第1回運営委員会議事録

開催日時：1992年4月30日(休)10：15～15：15

開催場所：東京大学理学部地球惑星物理学教室会議室 (316A 号室)

出席者：中沢・武田・荒川・大谷・加藤・川口・北村・杉浦・高木・土山・寺沢・留岡・林・藤原・松井・向井・村江・柳川・山本・磯部 (委任状)・矢内 (委任状)・中川 (オブザーバー)・佐々木 (オブザーバー)

## 1. 報告

## (1) 設立総会収支決算

藤原設立総会組織委員長より設立総会における収支決算の報告が以下の通り行なわれ、了承された。

## [収入の部]

設立準備委員会より	100,000
懇親会費 (1,500×115名)	172,500
計	272,500

## [支出の部]

文具類	12,545
リボン代金	5,000
代書謝礼	12,678
フィルム及び現像費	1,981
懇親会費	162,230
発送費	1,140
計	195,574

## (2) 入会状況

4月25日現在の学会入会状況が中沢会長より以下の通り報告された。

正会員：181名 学生会員：79名

## (3) 学会事務センターへの委託

学会事務の委託について中沢会長より次の通り報告があった。

・入退会事務は5月1日より(財)日本学会事務セン

ターに委託する。

・それに伴い入会方法が変わるが、その詳細はニュースレター (4月25日号) に紹介した。

・これまで年会費振込用に使っていた第一勧業銀行の口座 (名義：日本惑星科学会代表中沢清) は5月7日で解約する。なお、賛助会費振込用の住友銀行の口座は今まで通り開設しておく。

## (4) ニュースレターの配付

ニュースレターの配付に関して中沢会長より次の通り報告があった。

・4月25日号は、学会員の他、会員外希望者にも配付した (発送件数は約570件)。今年度いっばいはこの形の配付を続ける。

・今回の配付は従来と同じく、Eメールが利用できるサテライト (東大, 京大, 東工大, 国立天文台, 宇宙研) には、原版のみ送付し、コピー・製本・学内便送付はそれぞれで処理して貰うことにした。他には郵便による直接配付とした。

・今後はサテライトの負担を軽減できるように考えていきたい。

## (5) 次期学会講演会合同大会

地球惑星関連学会連絡会との関わりについて、中沢会長より次の通り、経過説明があった。

・同連絡会が4月24日に行なわれることが分り、急遽、連絡会幹事末広潔氏 (地震学会) に手紙を送り、日本惑星科学会も連絡会の正式メンバーに加わりたいこと、本学会の来春の学会講演会は可能な限り合同大会として行ないたいこと、4月24日の連絡会に代表を送りたいことを伝えた。その結果、末広氏から快諾の連絡を受け、山本委員、中川学会連合等作業部会長に連絡会への出席を依頼した。

4月24日の同連絡会での議論について、山本委員より以下の通り報告があった。

・来春の合同大会は、東京都立大学で行なわれる

ことになっているが、日程は、3/19(金)~3/22(月)の4日間になりそうである。LPSC 出席者の多い本学会には余りいい日程ではないが、ぎりぎりの妥協案として上記日程が選ばれた。

- ・国際会議等で連絡会がどの程度対外的な窓口としての役割を果たすかについて議論が行われた。
- ・次回連絡会までに '94. 3 合同大会実行委員を決めておく他、次の諸点の意見を求められている。
  - (a) 予稿集を A4判, 1 ページ 2 講演とし, 固有及び共通セッションをまとめて 1 冊にするのはどうか。
  - (b) 固有セッションをやめて, すべて共通セッションにしてはどうか。
  - (c) 学会員名簿を統一してはどうか (手始めにメイリングリストとしてのみ使うなど, 統一するとすればどのような内容, 形態をとるか)。
- ・次回の連絡会ニュースレター (No.3) は連休明けに発行される予定。また, その分担金は 1 回につき 1 万円程度と見込まれる。
- ・今年度の同連絡会幹事学会は地球電磁気地球惑星圏学会と決った。また, 次回の連絡会は, 9 月 29 日(火) 13:00 より国立科学博物館で行なわれる。
- 山本委員の報告に関連して若干の議論があり,
- ・本学会代表の '94. 3 合同大会実行委員は佐々木企画部会長とする。
- ・学会講演会をすべて共通セッションとしたのでは新しい学会を創った意味がなくなるので, 「固有セッションも残すべき」との意見を連絡会に伝える。

## 2. 議 事

### (1) 委員会成立の確認について

運営委員会成立を確認の上, 本日の委員会の書記として土山委員を選出した。

### (2) 運営委員の追加について

中沢会長より, 設立総会の議に従い地球化学分野等からの運営委員 2 名程を追加したい旨, 提案があり, これを了承した。議論の結果, 海老原氏

(都立大), 福岡氏 (学習院大) の両氏に運営委員をお願いすることになった。

### (3) 賛助会員の入会状況及び勧誘について

まず, 松井対外協力専門委員長より賛助会員入会状況について以下のとおり報告があった。

- ・既に数社が賛助会員として入会している。
- ・今年度中には 100 口を越える入会が見込まれる。
- ・賛助会員とは別に, シンポジウムなどへの寄付の形で集金できる可能性もある。

この報告を受け, 中沢会長より, 予算規模は当初見込んだものより膨れ上がり (議題(4)(5)参照)

そうで, 今後も賛助会員の勧誘に努力して欲しい旨要望があり, 適当な会員に趣意書第 2 刷 (設立発起人の追加されたもの) を送付し, 勧誘を依頼することにした。なお, このことと関連して, 本学会の事業計画を早く確定し, 予算の修正案を早急に作るべきとの意見が出された。

### (4) 事務局経費の追加と事務局補佐の選任について

中沢会長より, 事務局を東工大に置くにあたって学会専用の電話を引かざるを得なかったこと, また, 事務局アルバイトの時間単価が官庁の土曜閉庁に伴い増額されたことにより, 事務経費 (約 10 万円) 及び人件費 (約 7 万円) の増額を認めて欲しい旨要望があり, これを了承した。

また中沢会長より, 学会立ち上げ期にあり事務局及び会長としての雑務が膨大なため, 会長を補佐する幹事を置きたい旨, 要望があり, これを了承した。本年度は山本委員, 杉浦財務専門委員長に幹事をお願いすることとなった。

### (5) 学会誌について

まず, 向井編集専門委員長から編集委員として以下のとおり選任した旨, 報告があり了承された。井田 [幹事], 大谷, 小林 (憲), 佐々木 (晶), 高木, 土山, 留岡, 中川, 早川, 藤原, 村江, 坂本  
 ついで, 向井委員長から, 学会誌の表紙は学会の「顔」であり, 長期間使用することになるので, デザイン及び印刷 (表紙は全色印刷) に多少のお

金をかけたい旨、要望があり、これを了承した。また、中川委員から、既にデザイナー及び印刷所と接触はじめており、デザイン料として数万円、印刷費は400部、季刊として約60万円になるとの見通しとの報告があった。学会誌印刷費として当初約40万円を予定しており約25万円の支出増となるが、経費増も含めて編集専門委員会の意向を了承した。

学会誌名について、編集専門委員会を中心に検討されてきたいくつかの案が示され、種々の観点から議論されたが、最終的には投票によって決定することになり、2連記無記名の投票を行なった。その結果は以下の通り。

遊星人, 遊・星・人	16	Wakusei	1
遊星	6	WAKUWAKU	1
わくせい	5	惑・星・人	1
WAKUSEI	3	惑星同人	1
Nemesis	3	かぐや姫	1
わくわく	2	白票	2
Planetary People	2		

更に、上位3名称（遊星人については点つき、点なし、を区別して4名称）について第2回目の投票（単記無記名）を行なったところ、

遊・星・人	6	遊星	5
わくせい	5	遊星人	4

となり、投票結果が割れたので、以上4名称から編集委員とデザイナーが相談の上最終決定することとした。

なお、学会誌の編集方針、作業分担などの策定は編集専門委員会に委ねた。

#### (6) Eメールネットワークのテストについて

中沢会長より、今後出来るだけEメールを用いた通信を行なえるよう、ネットワークを整備したい旨提案があり、高木委員を中心に、Eメール番号のチェック、日本語対応の確認、Eメール使用実態調査などを約半年かけて行なうことにした。

#### (7) 第1期事業計画について

中沢会長より、第1期事業計画について早急に

案をまとめる必要があること、今秋に何等かのシンポジウムを開いたり、学会が後援する形で全国の大学の惑星科学関連研究室の公開、その他会合の後援など、幅広い活動計画を提案して貰いたい旨、発言があり、種々議論の結果、以下の方針で準備を進めることになった。

- ・新しい学会の立ち上げの年度でもあり、また、学術会議の登録研究団体に認定されるためにも、より活発な事業計画を組むべきである。
- ・学会講演会をも含めたシンポジウムを今秋行なうことを前提に、中沢会長、山本幹事、佐々木企画部会長を中心に計画案を練ることにした。
- ・大学の研究室公開や高校生や学部学生を対象にした講演会など、開かれた活動を取り入れることも今後検討することになった。

#### (8) 将来計画専門委員会、対外協力専門委員会の性格・構成について

中沢会長より、学会組織として常設の将来計画専門委員会を置くことになった設立準備委員会での議論経緯につき説明があり、それをもとに議論した結果、比較的長期をみすえて日本の惑星科学振興策を多角的に検討すべく活動を開始することになった。委員は数名の規模とし、その選任については留岡将来計画専門委員長が行なう。

また、対外協力専門委員会については、後日、松井委員長、中沢会長、山本幹事を中心に検討を進めることとした。

これらの議論と関連して、他の委員会に就いてはその性格がはっきりしていることから、各委員長が適正人数の委員を選任し、活動を開始すること、そのための当面の経費を委員長名義の口座に振り込むことになった。

#### (9) 次回運営委員会開催日程について

新学会立ち上げの重要な時期にあるので、余り時間を空けず、宇宙研月惑星シンポジウム開催時期（7月中旬）に第2回運営委員会を開くことになった。詳細については追って事務局より連絡することとした。

(以上)

## ◇日本惑星科学会第2回運営委員会議事録

開催日時：1992年7月4日(土)11:00~15:45

開催場所：東京大学理学部地球惑星物理学教室会議室 (316A 号室)

出席者：中沢・水谷・山本・大谷・川口・杉浦・高木・土山・留岡・林・福岡・藤原・松井・矢内 (以上参加者)・武田・荒川・海老原・加藤・寺沢・向井・村江 (以上委任状)・井田・中川・佐々木 (以上オブザーバー)

## 1. 報告

## (1) 地惑関連学会合同大会実行委員の派遣(中沢)

6月5日日本蔵氏より、来春の地惑関連学会合同大会に向け6月17日に大会実行委員会が発足する旨連絡があり、日本惑星科学会から同委員会委員を派遣するよう要請があった。山本幹事と相談し、山本幹事、佐々木企画部会長の2人を実行委員とすることとした。

また、報告(2)にあるように、6月17日開催の大会実行委員会で同プログラム小委員会(委員長は東大海洋研の藤本博巳氏)の発足が決まり、同委員の派遣が要請された。山本幹事、佐々木企画部会長と相談の結果、阿部豊(東大・理)、三沢啓司(極地研)の両氏に委員をお願いすることとした。

## (2) 合同大会実行委員会報告(山本)

6月17日の同連絡会での議論について、山本委員より以下の通り報告があった。

- ・来春の合同大会は東京都立大学で行なわれ、日程は、3/19(金)~3/22(月)の4日間と決った。特別講演は第3日(3/21)午後、懇親会は同日夕の予定。特別講演は多くとも2講演とする。テーマや人の推薦を募集中。また懇親会は都立大国際交流会館で行われ、会費は5000円の予定。
- ・共通セッション、シンポジウムテーマを募集中。連絡はプログラム小委員長藤本氏(東大海洋研)

まで。惑星科学会からの提案は佐々木企画部会長または山本幹事まで連絡すれば次回実行委にて提案できる。詳細は連絡会ニュースレターNo.3を参照。

- ・次回実行委は7月16日(木)に都立大にて開催予定。
- ・次回実行委員会までに次の諸点の意見を求められている。

(a)予稿集を合本化するのはいかがでしょうか。

(b)プログラム発送用の名簿を統一してはどうか。名簿の統一については、本学会として協力するが、これに関連して

- ・完全な形でデータ提供した場合には費用負担についての配慮が必要

- ・書式を統一した上で、各学会がそれぞれ作り実行委に提出してはどうか

などの意見が出された。

## (3) 学会誌創刊号発行(中沢, 中川)

学会誌の表紙のデザイン決定、創刊号編集につき、各々中川編集委員、中沢会長から経緯説明があった。また、これに関連して、本文のレイアウトの基本は当分の間創刊号に準ずることとし、現在『会誌編集要綱』を制作中であること、創刊号の印刷は鮮明さを欠くことから改善の方法を探っていることが報告された。

## (4) 会員現況(中沢)

7月1日現在の学会入会状況が以下の通り報告された。

正会員：231名 学生会員：88名

賛助会員：7団体 (28口)

## (5) 学会組織英名

対外的な手紙のやりとりなどで本学会の組織や役員の英名が必要となったため、武田、水谷両副会長、山本幹事と相談の上、次のように決めた旨、中沢会長より報告があった。

総 会	General Assembly
運営委員会	Steering Committee
将来計画専門委員会	Committee for Future Planning
対外協力専門委員会	Committee for External Relations
総務専門委員会	Committee for General Affairs
財務専門委員会	Committee for Budgeting and Accounting
編集専門委員会	Committee for Publication
会 長	President
副会長	Vice-President
監 事	Auditor
幹 事	Secretary

## 2. 議 事

### (1) 委員会成立の確認について

運営委員会成立を確認の上、本日の委員会の書記として土山委員を選出した。

### (2) 第1回運営委員会議事録の承認

合同大会日程（報告事項(5)）のミスを修正し、第1回運営委員会議事録（案）を承認した。

### (3) 日本惑星科学会細則の改正

中沢会長より、学会入会手続きに関する日本惑星科学会細則一部改正について以下の通り提案があった。

現 行：

第1条 本会に会員として入会を希望する者は、本会所定の入会申込書に次のことがらを記入し、会費を添えて、会長に提出する。会長は運営委員会に諮って入会を決定する。（以下省略）

改 正：

第1条 本会に会員として入会を希望する者は、本会所定の入会申込書に次のことがらを記入し、会長に提出する。会長は運営委員会に諮って入会を決

定する。（以下省略）

改正理由：

アンダーラインの箇所は学会発足当初は意味を持っていた。しかし、さる5月14日をもって、入会事務は(財)日本学会事務センターに委託され、年会費徴収は入会受理後、同センターが行なうことになっている。

若干の意見交換の後、全員一致で細則第1条の改正が承認された。

### (4) 秋期学会講演会開催について

第1回運営委員会の議を受け、秋期学会講演会（あるいはシンポジウム）開催について種々の観点から長時間にわたって議論が行なわれた。その結果、以下の3点を確認した。

- ・宇宙研の月・惑星シンポジウムや極地研の南極隕石シンポジウム、IGC、他学会の秋期学会講演会などが夏から秋にかけて次々と予定されており、研究発表の機会には十分にある。それ故、少なくとも今年度に限っては、秋期講演会開催は見送る。
- ・しかし、学会設立初年度でもあり、学会のアクティビティを内外に明らかにすることも重要なため、学会講演会とは違った形の事業として“惑星科学全般を網羅できるようなシンポジウム”を企画する。会員およびその周辺の研究者を対象とし、開催時期は来年1月中旬とする。また、その具体案は佐々木企画部会長を中心に、企画部会、総務委員会等で早急に検討し、その情報をニューズレター、学会誌、ポスターなどで周知する。
- ・上記シンポジウムとは別に、前回の運営委員会で中沢会長より提案のあった「本学会後援による惑星科学関連研究室の公開」や他の幅広い活動計画も積極的に検討すべきである。
- ・秋期講演会を見送ることから、来春の合同大会における講演会の在り方を十分検討しておく必要がある。

### (5) 将来計画専門委員会委員の選任と活動方針に

ついて

第1回運営委員会の議を受け、留岡将来計画専門委員長より、同委員会委員候補が下記の通り提示され、了承された。

留岡 和重 (委員長)

渡辺誠一郎 (山形大・理)

大谷 栄治 (東北大・理)

川口淳一郎 (宇宙研)

海老原 充 (都立大・理)

林 正彦 (東大・理)

加藤 学 (名大・理)

土山 明 (阪大・教養)

藤井 直之 (名大・理)

なお、検討内容によっては上記委員以外の方にも委員として加わっていただくこともある旨、留岡委員長より発言があり、了承された。

将来計画専門委員会の構成が確定したのを受けて、同委員会の当面の活動内容について中沢会長より以下のような要望があった。

- ・昨今、各大学に“惑星”を冠した講座や学科が生れている。しかし、後発の学問分野であるため、規模が小さく十分な設備がないこと、高いレベルの専門家集団が不足していることなど、研究環境は極めて不十分な状況にある。これら研究環境の整備・改善に向け、提言書『惑星科学の振興について (仮称)』を作成し、文部省、学術会議、学術審議会、科学技術会議など正式機関へ働きかける資料としたい。2～3年をめぐりに将来計画委員会でこの提言書をまとめてほしい。

まずは、研究環境の現状を把握するための各種調査を行ない、1年に1度程度の間報報告を運営委員会に出してもらいながら、作業を進めてはどうか。

- ・上記検討を進める中で、惑星科学将来計画に関するシンポジウムなどのテーマを掘り起こし、総務委員会企画部会へ提言を行なって欲しい。
- ・もう少し長期的な検討課題として、2000年以降

の本格的惑星探査の立案をも視点に入れて欲しい。日本はやっと独自の惑星探査を実施する段階に達したが、既に立案、実行に移されている1990年代の計画は、いわばパイロット的なもので、太陽系の起源に迫るには更に本格的な計画を推進していく必要がある。地球型惑星の内部探査、火星の生命探査、小天体の物質科学的探査などを対象に、その科学的意義、方法、予想される困難とその克服のための方策、国内における実行グループの育成方策、巨大化する探査の国際的協力形態などについて、現状にこだわらず夢ある計画案を作り上げて欲しい。

#### (6) 他委員会等の委員の選任

財務専門委員会、総務専門委員会作業部会の委員が当該委員長(作業部会長)から推薦され、以下の通りお願いすることとした。

##### 財務委員会

杉浦 直治 (委員長)

川口淳一郎 (宇宙研)

柳川 弘志 (三菱化成研)

##### 企画部会

佐々木 晶 (部会長)

阿部 豊 (東大・理)

永原 裕子 (東大・理)

三沢 啓司 (極地研)

渡部 潤一 (天文台)

##### 学会連合等部会

中川 義次 (部会長)

山本 哲生 (宇宙研)

#### (7) 会誌別刷、学会誌創刊号贈呈について

会誌創刊号の編集に際して、種々の問題が明らかになったが、そのうち、

- (a)執筆者に原稿料を支払うのか
- (b)別刷を作るのか。また、作る場合、その代金は取るのか。
- (c)会員外の査読者には査読料を支払うか。

については運営委員会で決めて欲しい旨、中沢会長より要請があった。これを受け、他学会誌の状

況など考え合せて、

- (a)原則として原稿料は支払わない。
- (b)別刷は作る。また、その代金は原則として徴収しない。

とし、これらをもとに会誌第2号発行までに編集委員会で投稿規定などを整備していくことになった。

なお、学会誌創刊号を幾つかの機関等に贈呈したい旨、中沢会長より提案があり、以下の通り贈呈先を決めた。

(a)学協会関係

地球電磁気・地球惑星圏学会

地震学会

日本火山学会

日本地球化学会

日本測地学会

日本気象学会

日本海洋学会

日本天文学会

日本物理学会

日本地質学会

日本鉱物学会

日本岩石鉱物鉱床学会

日本資源地質学会

日本航空宇宙学会

日本宇宙生物科学会

生命の起源及び進化学会

日本学術会議会長

日本学術会議第4部会長

宇宙開発事業団

月・惑星協会

日本ロケット協会

'92合同大会委員長

(b)研究所等

国立極地研究所

国立天文台

宇宙科学研究所

航空技術研究所

地質調査所

宇宙線研究所

理化学研究所

東京大学理学部長

東工大生命理工学部長

(c)その他

ニュートン編集長

文部省国際学術局学術情報課

BROOKS社(多賀汎司)

国立国会図書館

林忠四郎京大名誉教授

上記の他、編集等でご協力いただいた方にも贈呈する。

(8) 学生会員の学会運営活動への参加

若い大学院生が学会を与えられたものとしてではなく、自ら作り出すものであることを自覚できるよう、また、次世代の人材を養成する意味からも、学生会員が学会運営活動に参加できるよう検討を始めた旨、中沢会長より発言があり、若干の意見交換が行われた。

(9) 書面による運営委員会の開催

会員入会の承認やその他事務的な問題については、書面による運営委員会で処理できるよう検討したい旨、中沢会長より提案があり、これを了承した。

(10) 学会誌『Calendar』の情報提供について

学会誌に、惑星科学に関連した催物をリストアップした『Calendar』という項目があるが、一部編集委員のみによって情報収集したのでは、情報に偏りが生じる可能性がある。『Calendar』に掲載した方がよいと判断される情報は、井田編集委員幹事にファックスで提供して欲しい旨、中沢会長よりアナウンスがあった。

(以上)



## ◇日本惑星科学会第3回運営委員会議事録

開催日時：1992年8月4日(火)19：30—20：30

開催場所：宇宙科学研究所 A 棟6階会議室

出席者：中澤，武田，水谷，山本，杉浦，磯部，加藤，高木，藤井，藤原，向井（以上参加者），荒川，大谷，川口，北村，土山・寺沢，留岡，林，福岡，松井，村江，矢内（以上委任状），佐々木，小林（以上オブザーバー）

## 1. 報告

## (1) 財政報告

学会財政の現状について中澤会長および杉浦財務委員長から報告があった。その中で、一部の賛助会員からの入金が遅れていること、および賛助会員数が当初の予定より少ないことが指摘された。

## (2) 将来計画委アンケート

惑星科学関連学科の現状調査のため、将来計画委員会が行うアンケート原案についての報告が中澤会長からなされた。

## 2. 議事

## (1) 委員会成立の確認について

委員会成立を確認の上、議事に入った。

## (2) 第2回運営委員会議事録の承認

第2回運営委員会議事録（案）の通り承認した。

## (3) “遊・星・人”投稿・編集要領

“遊・星・人”「投稿規定」，「原稿作成の手引」および「編集要領」の原案が中澤会長より提示された。若干の議論の後，「投稿規定」を承認し，他については編集委員会で最終案を完成させることになった。「投稿規定」及び「原稿作成の手引」は第2号以降の会誌に載せる。

## (4) 財務委員選任

財務委員として，新たに三浦保範氏（山口大）を加えたい旨，杉浦財務委員長から提案があり，了承された。

## (5) 賛助会員勧誘

財政事情についての報告を受け，賛助会員をさらに増やす努力を行うことが中澤会長から要請された。参考資料として賛助会員として有望な組織のリストが配布された。（以上）

## ◇編集専門委員会報告（1992年8月4日開催）

## (1) 「投稿・編集要領」作成

同日開催された第3回運営委員会において本学会誌「遊・星・人」の投稿規定が決定されたこと，会誌第2号から編集作業を東大教材出版に委託することが報告された。これらを受けて，更に詳細なルールをもり込んだ「原稿作成の手引」及び会誌のレイアウト，編集作業手順を定めた「会誌編集要領」（原案は事務局が作成）について議論し，概ね原案通り了承された。また，「投稿規定」，「原

稿作成の手引」は各々会誌の表紙，裏表紙の裏面に毎号掲載するものとし，更に，「投稿規定」，「原稿作成の手引」，「会誌編集要領」を1冊子にまとめ，希望者に配布する。

なお，会誌記事に英文要約を付けることも議論されたが，タイトルに英文がないなど統一的な形式を欠くことから，会誌スタイルの全面見直しを行う時点まで結論をのばした。

## ◇日本惑星科学会第1期役員名簿

## 会 長

中沢 清 (東工大・理)

## 副会長

武田 弘 (東大・理)

水谷 仁 (宇宙研)

## 監 事

中野 武宣 (天文台)

松田 准一 (阪大・理)

## 運営委員・幹事

山本 哲生 (宇宙研)

## 運営委員・幹事・財務専門委員長

杉浦 直治 (東大・理)

## 運営委員・総務専門委員長

藤原 顕 (京大・理)

## 運営委員・編集専門委員長

向井 正 (神戸大・理)

## 運営委員・将来計画専門委員長

留岡 和重 (神戸大・理)

## 運営委員・対外協力専門委員長

松井 孝典 (東大・理)

## 運営委員

荒川 政彦 (北大・低温研)

磯部 琇三 (天文台)

大谷 栄治 (東北大・理)

海老原 充 (都立大・理)

加藤 学 (名大・理)

川口淳一郎 (宇宙研)

北村 雅夫 (京大・理)

高木 靖彦 (東邦学園短大)

土山 明 (阪大・教養)

寺沢 敏夫 (東大・理)

林 正彦 (東大・理)

福岡 孝昭 (学習院大・理)

藤井 直之 (名大・理)

村江 達士 (九大・理)

柳川 弘志 (三菱化成生命科学研)

矢内 桂三 (極地研)

## 学会連合等部会長

中川 義次 (東大・理)

## 企画部会長

佐々木 晶 (東大・理)

## ◇日本惑星科学会賛助会員名簿

1992年8月10日までに、賛助会員として本学会に御協力下さった団体は下記の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します (五十音順)。

(株)大林組

清水建設(株)宇宙開発室

(株)ジュンテンドー

(株)竹中工務店

(助)日本宇宙少年団

(株)本田技術研究所

(助)リモートセンシング技術センター